

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2026年5月)

2026年5月8日

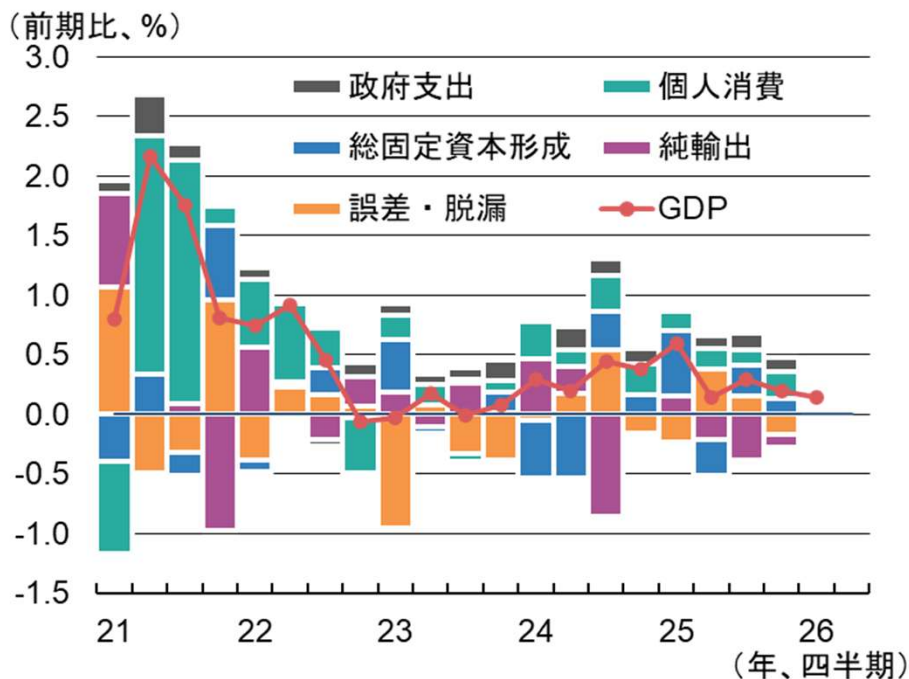
調査部 主任研究員

土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は減速している

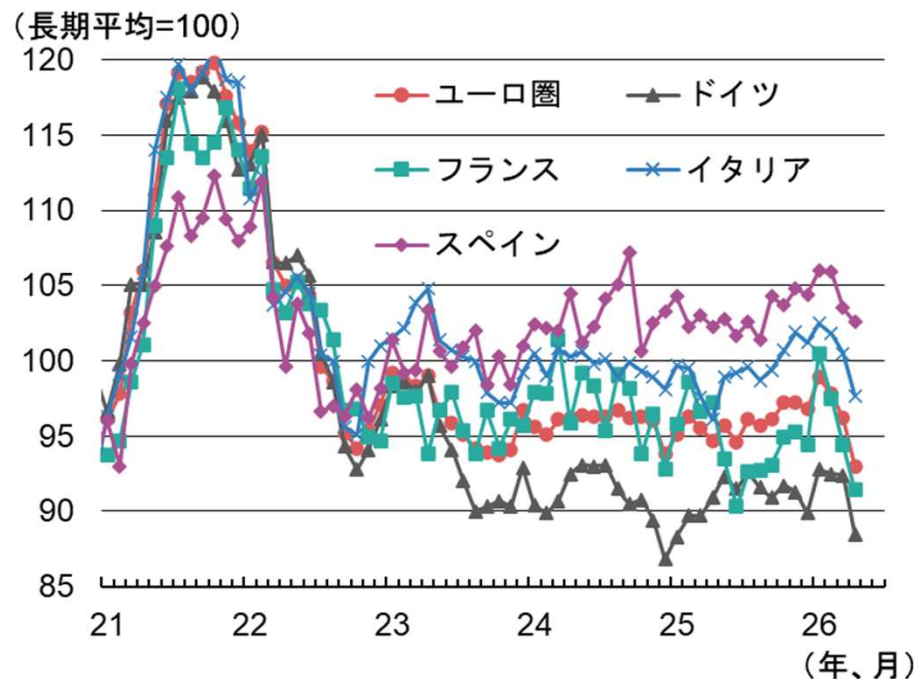
ユーロ圏の1-3月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.1%と、2四半期連続で増勢が鈍化した。主要国別には、ドイツが同+0.3%と前期(同+0.2%)から成長率が拡大した反面で、フランスが同横ばいと2四半期連続で成長率が低下した。一方、最新2026年4月の景況感指数は93.0と3カ月連続で低下した。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

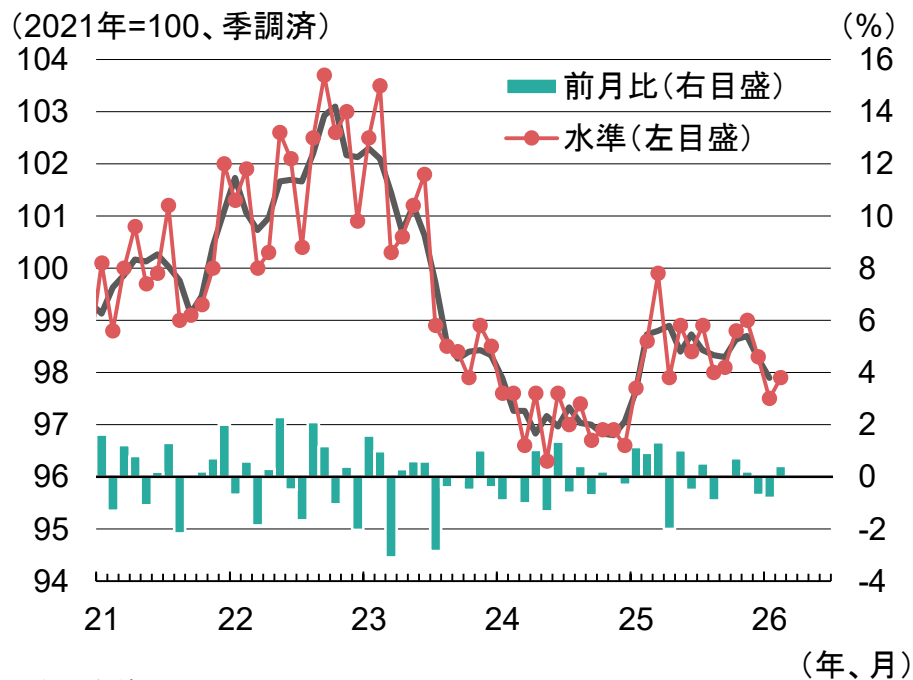


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は低迷している

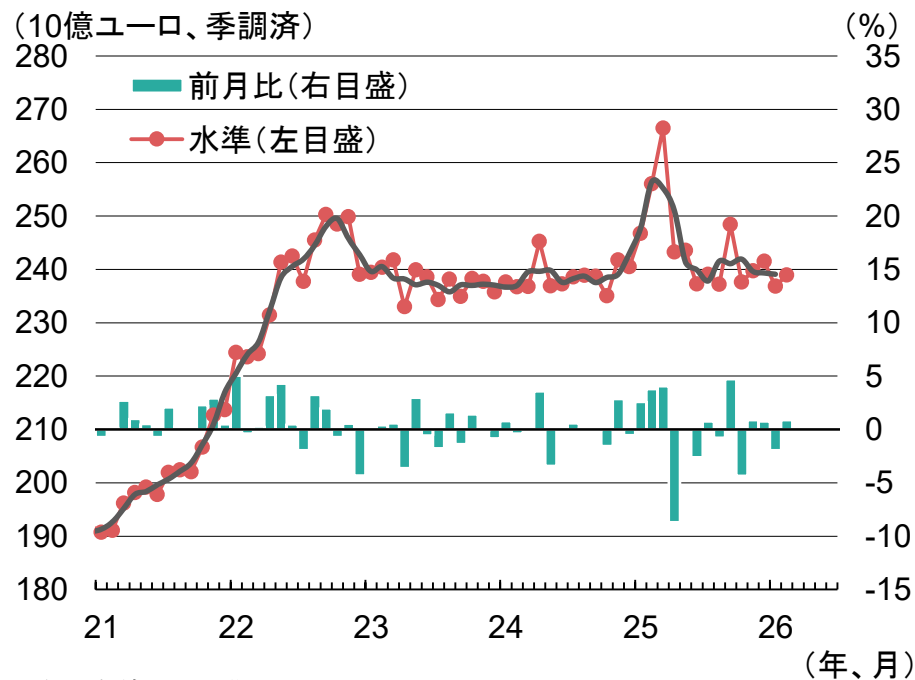
ユーロ圏の2月の鉱工業生産は前月比+0.4%と3カ月ぶりに増加した。資本財や非耐久消費財の生産が反発したが、生産全体の動きは均すと下向きのまま。一方、同月の名目輸出は同+0.9%と再び増加したが、均した動きは横ばい。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

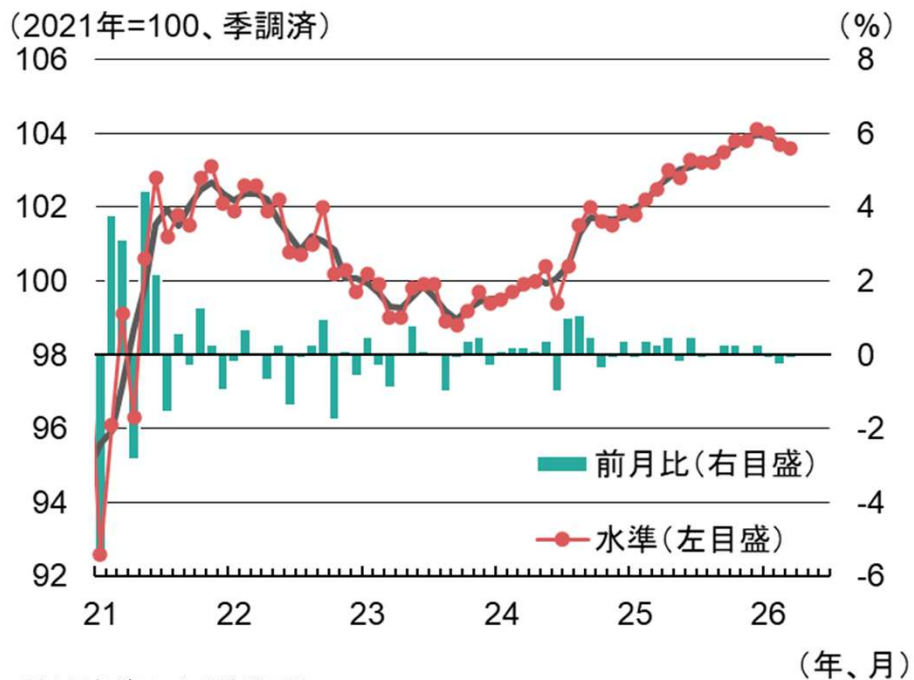


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は悪化している

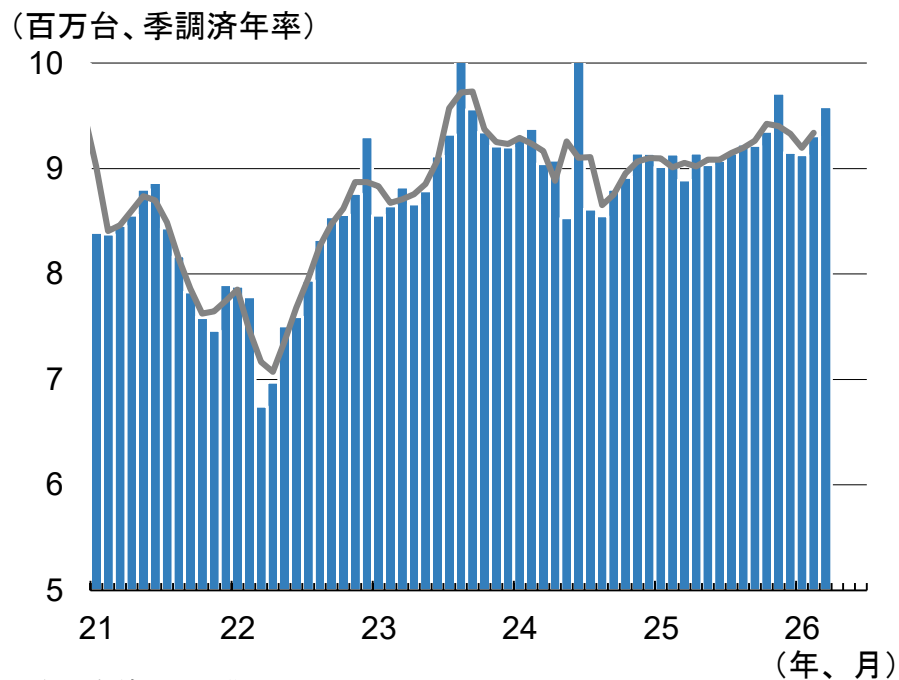
ユーロ圏の3月の小売数量は前月比▲0.1%と3カ月連続で減少し、均した動きも下向き。一方、3月の新車販売台数は前月比+3.0%の年率959万台と2カ月連続で増加したが、均した水準は横ばい。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

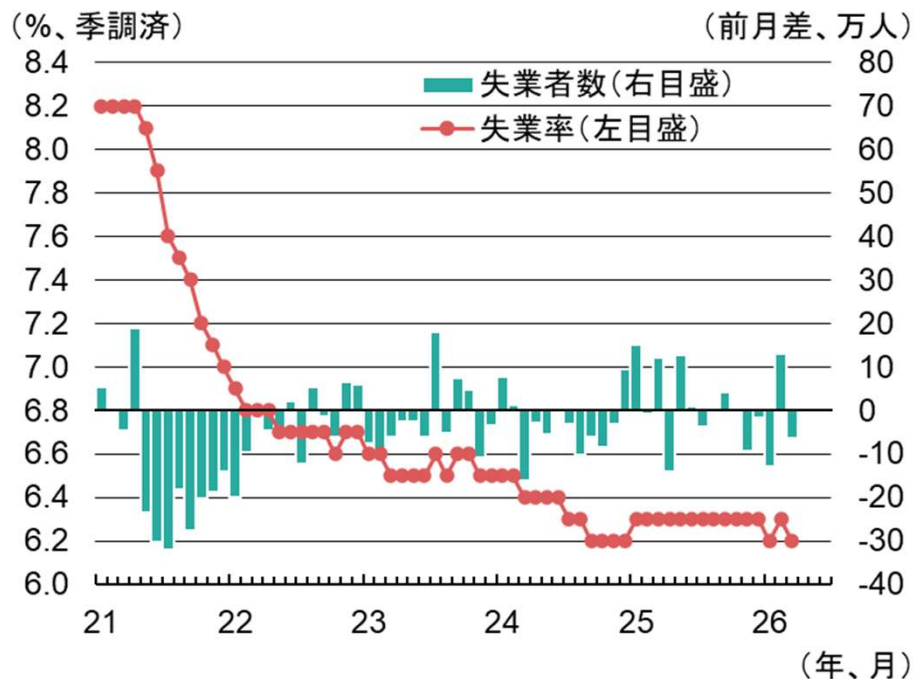


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は完全雇用の状態

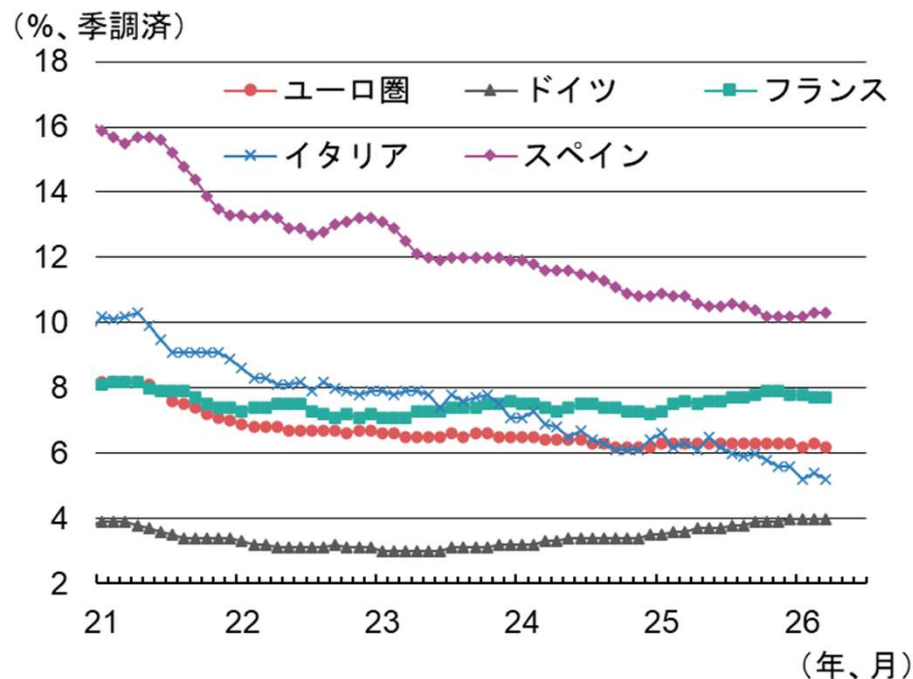
ユーロ圏の3月の雇用統計では、失業率が6.2%と再び低下した一方、失業者数は前月差6.3万人減と減少に転じた。失業率・失業者数とも一進一退が続いており、完全雇用の状態と判断される。失業率を主要国別に確認すると、いずれの国も年明け以降は横ばいで推移している。

失業率と失業者数



(出所) ユーロスタット

主要国別失業率

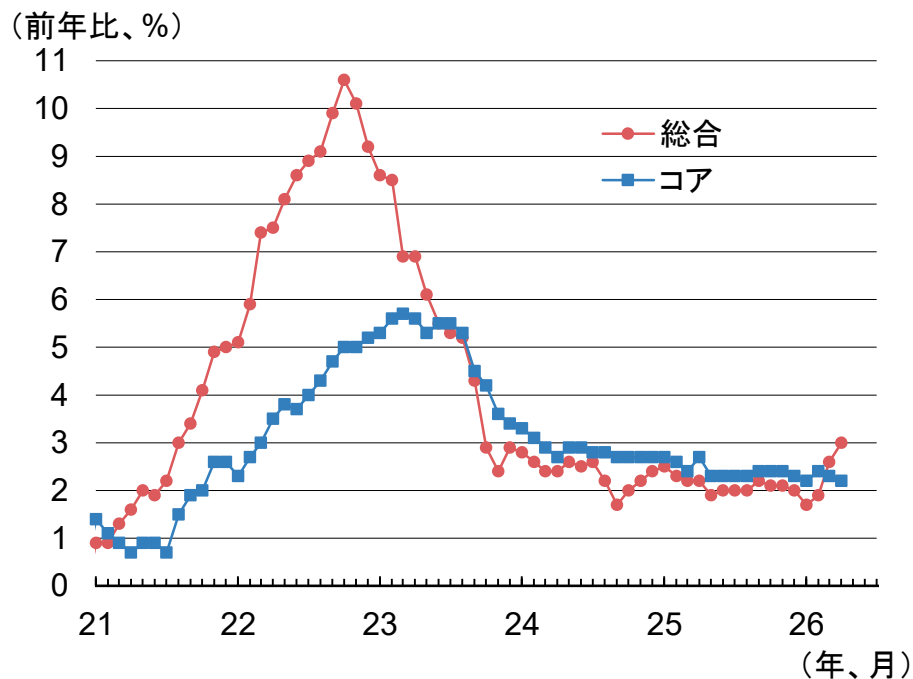


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレが加速している

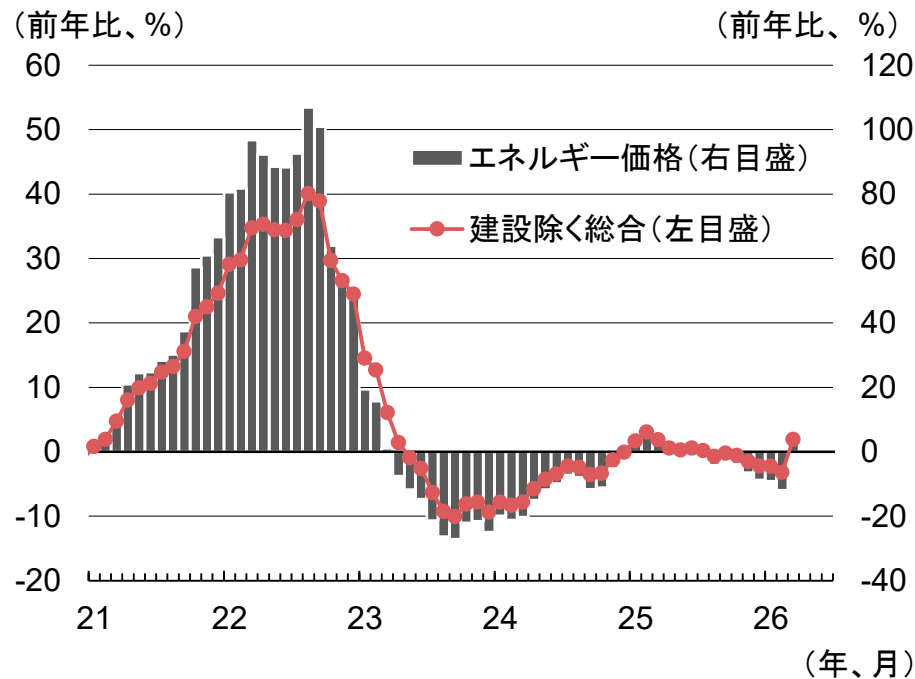
ユーロ圏の4月の消費者物価(総合ベース)は前年比+3.0%と、伸びが3カ月連続で加速した。うちエネルギー価格は同+10.9%と、イラン情勢の緊迫化に伴う急騰が鮮明である。また生産者物価(建設除く総合)は3月時点で同+2.0%と、7カ月ぶりにプラスに転じた。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

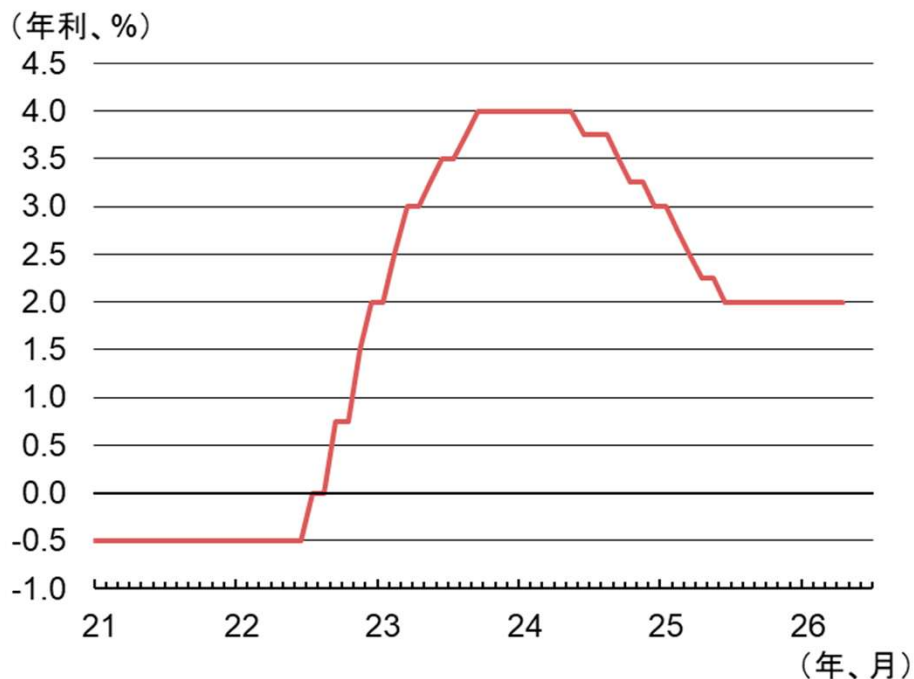


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは4月理事会で金利を据え置き

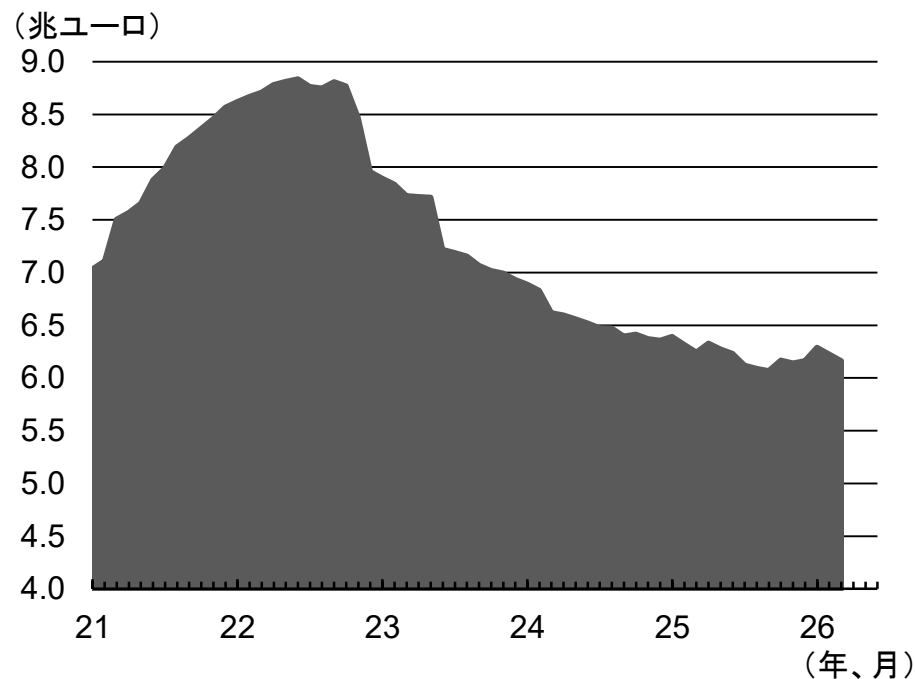
欧州中央銀行(ECB)は4月30日に政策理事会の結果を公表し、政策金利(預金ファシリティ金利)を年2%で据え置いた。金利据え置きの決定は全会一致だったが、ドイツ連銀のヨアヒム・ナーゲル総裁などタカ派のECB高官を中心に、次回6月の理事会(結果公表は6月11日)で利上げを実施する可能性が高いとの言及が会合後に相次いだ。

政策金利(預金ファシリティ金利)



(出所)ECB

ユーロシステムのバランスシート

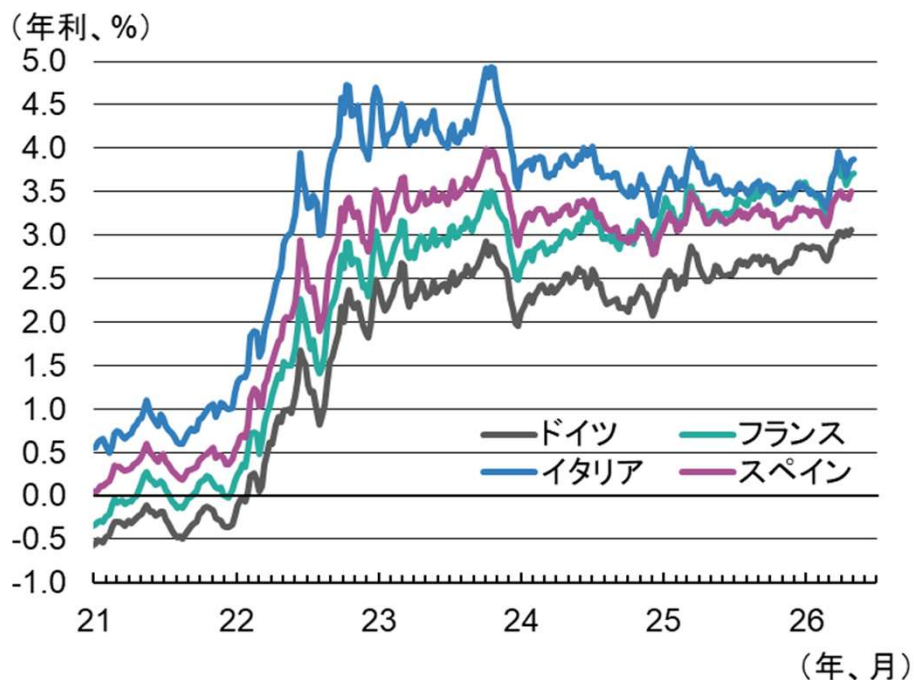


(出所)ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価も上昇

ユーロ圏主要国の4月の長期金利は上昇した。イラン情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰が材料視され、インフレ懸念から国債が売られた。一方、同月の株価は上昇した。堅調な企業業績が相場を押し上げた反面で、イラン情勢の緊迫化が相場の重しとなった。

10年国債流通利回り



(出所)各国中銀

株価(EURO STOXX 50)

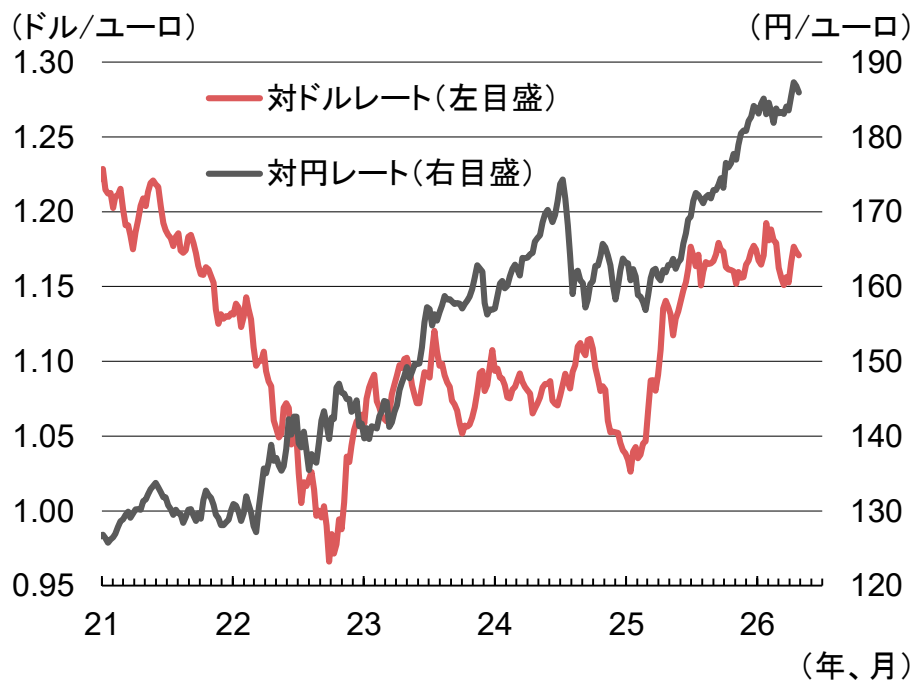


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで上昇、対円で横ばい

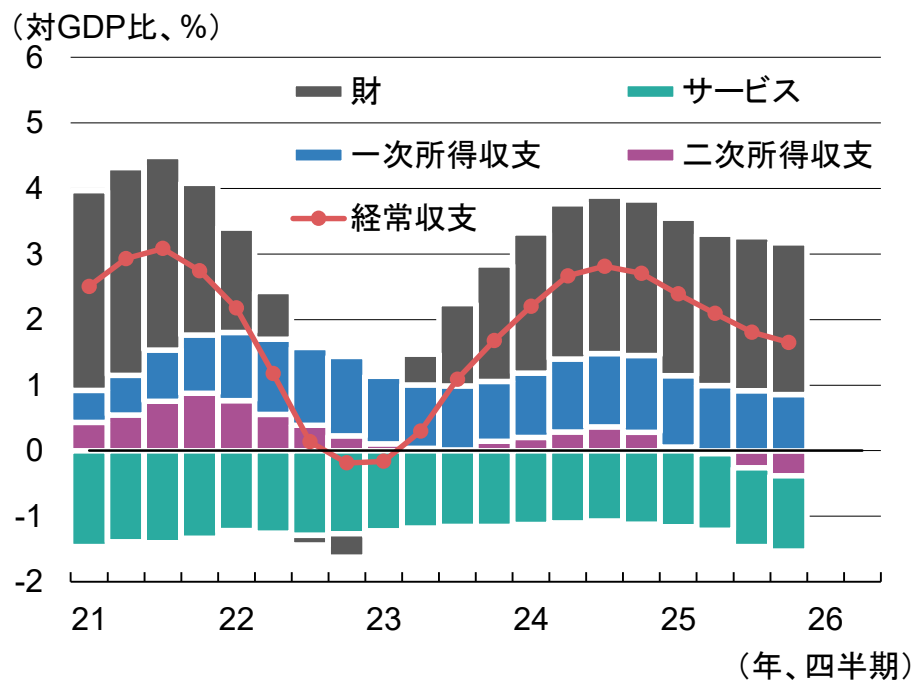
EUの通貨ユーロの4月の相場は対ドルで上昇、対円で横ばいとなった。いわゆる“有事のドル買い”が一服し、対ドルでユーロ高が進んだ。一方、対円でも月下旬までユーロ高が進んだが、月末に日銀による為替介入が行われ、月間では横ばいとなった。経常収支は、財収支(貿易)黒字が高止まりしており、実需面からのユーロ買い圧力は安定している。

ユーロ相場



(出所) ECB

経常収支



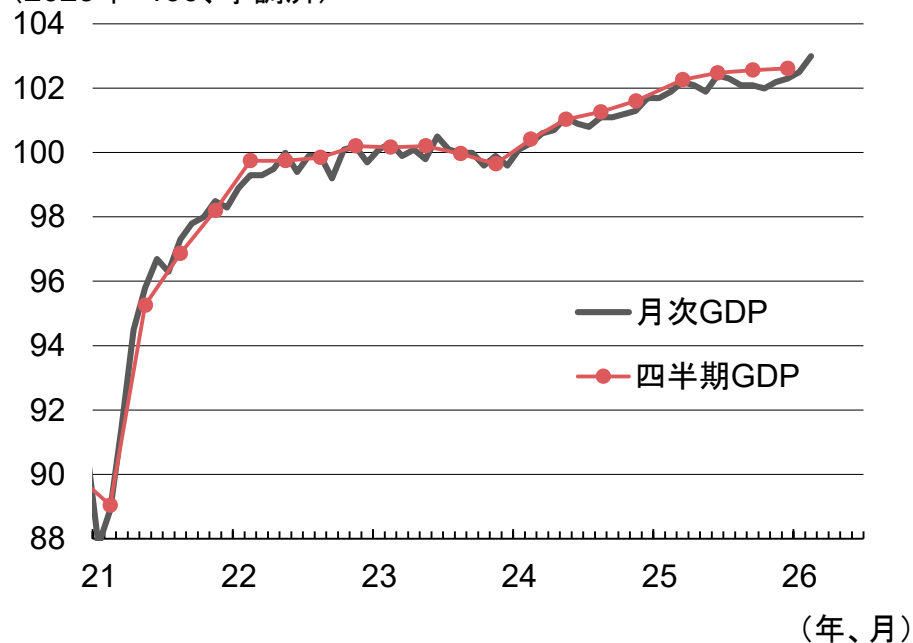
(出所) ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は低迷している

英国の2025年10-12月期の実質GDP(確定値)は前期比+0.1%と、7-9月期と同じ伸びになった。主要な需要項目別には、個人消費が底堅かった反面で、総固定資本形成や輸出が減少した。一方、最新2026年2月の月次GDPは前月比+0.5%と2カ月連続で増勢が加速した。

実質GDP

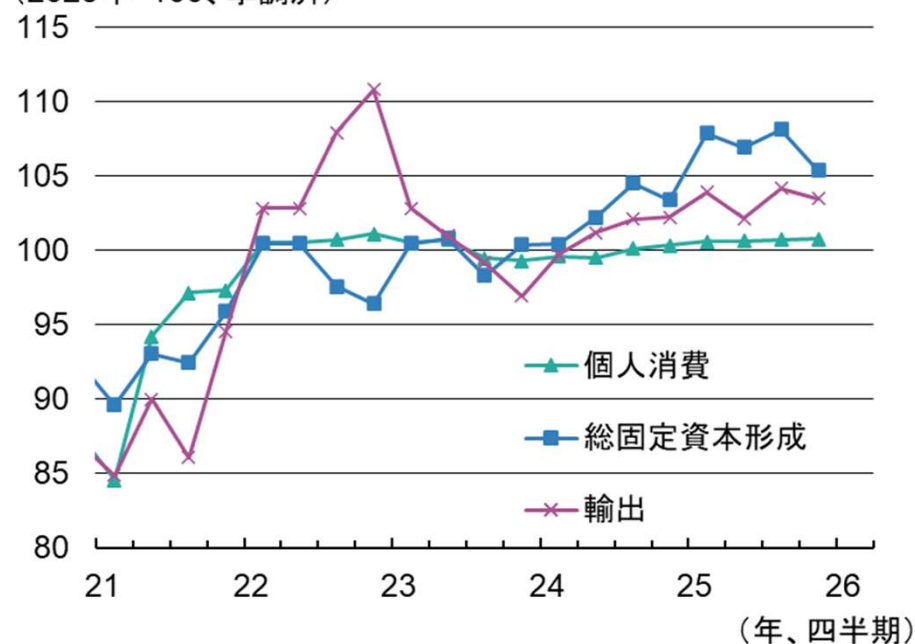
(2023年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2023年=100、季調済)

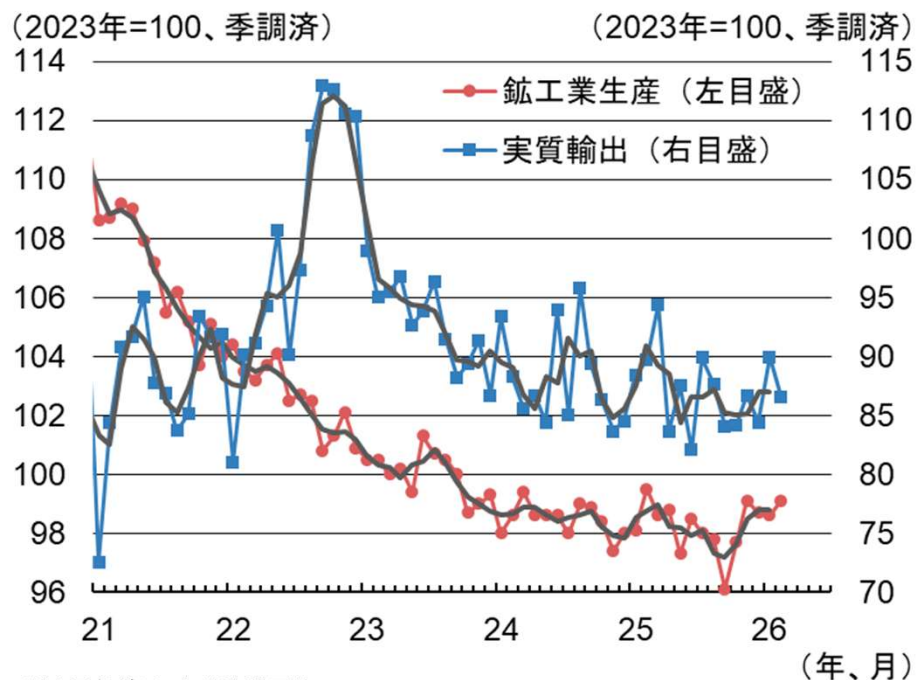


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は低迷している

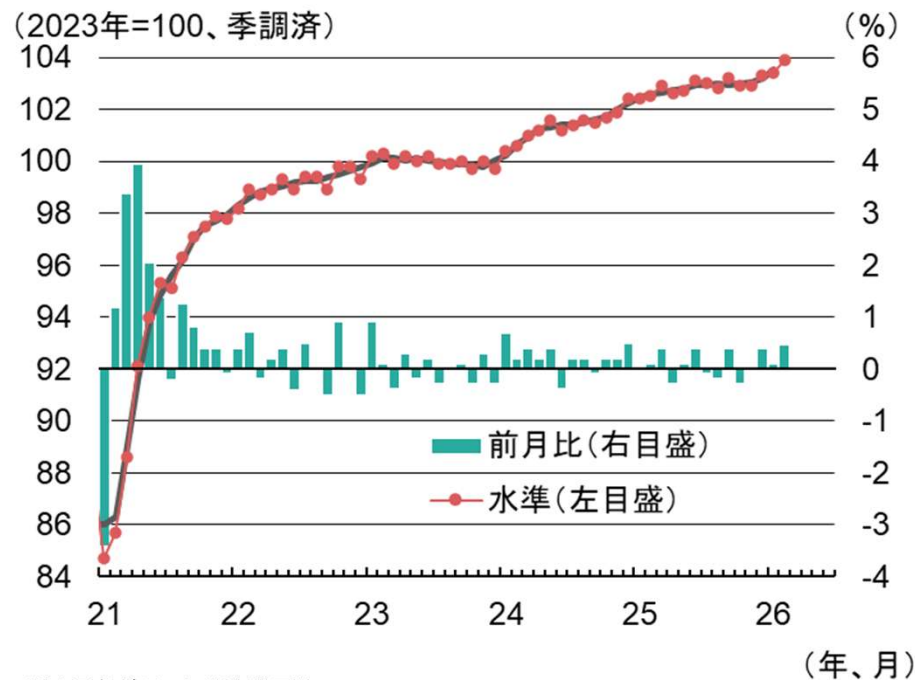
英国の2月の鉱工業生産は前月比+0.5%と3カ月ぶりに増加した。一方、同月の実質輸出は同▲3.8%と減少したが、いずれも均した動きは低位横ばい。他方で、同月のサービス業生産は同+0.5%と増勢が再び加速し、均した動きは上向き。

鉱工業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

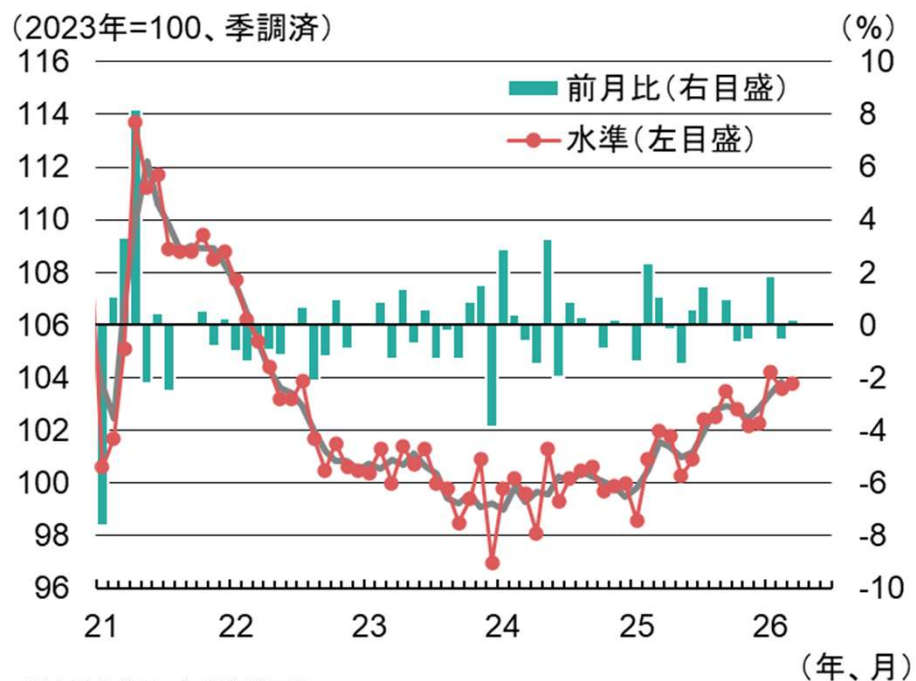


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は回復している

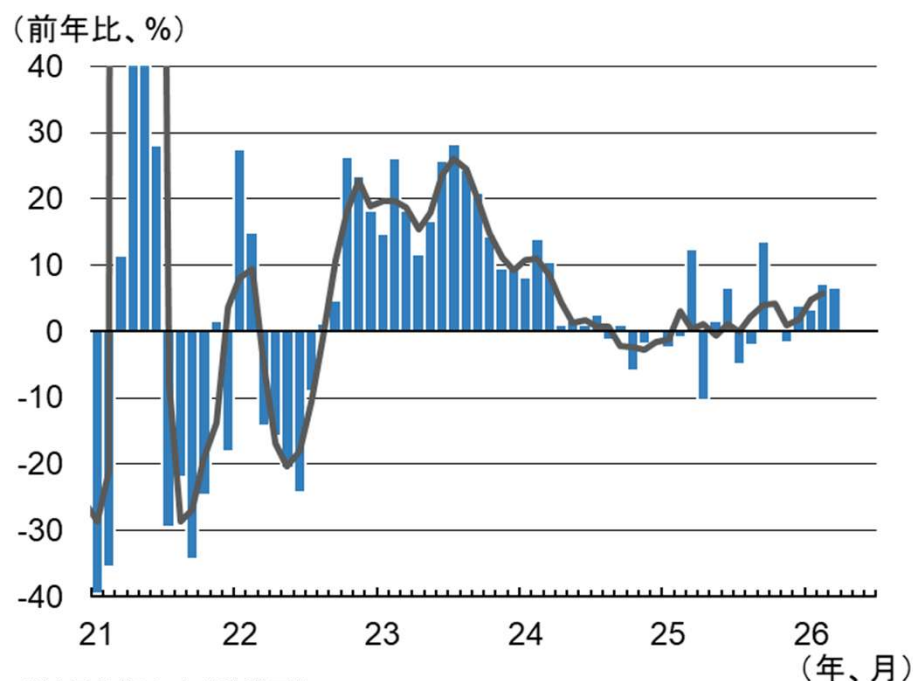
英国の3月の小売数量(除く石油)は前月比+0.2%と再び増加し、均した動きは上向き。また同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+6.6%と4カ月連続で前年水準を上回り、均した動きもプラスを維持。市場規模は年率205万台レベル。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

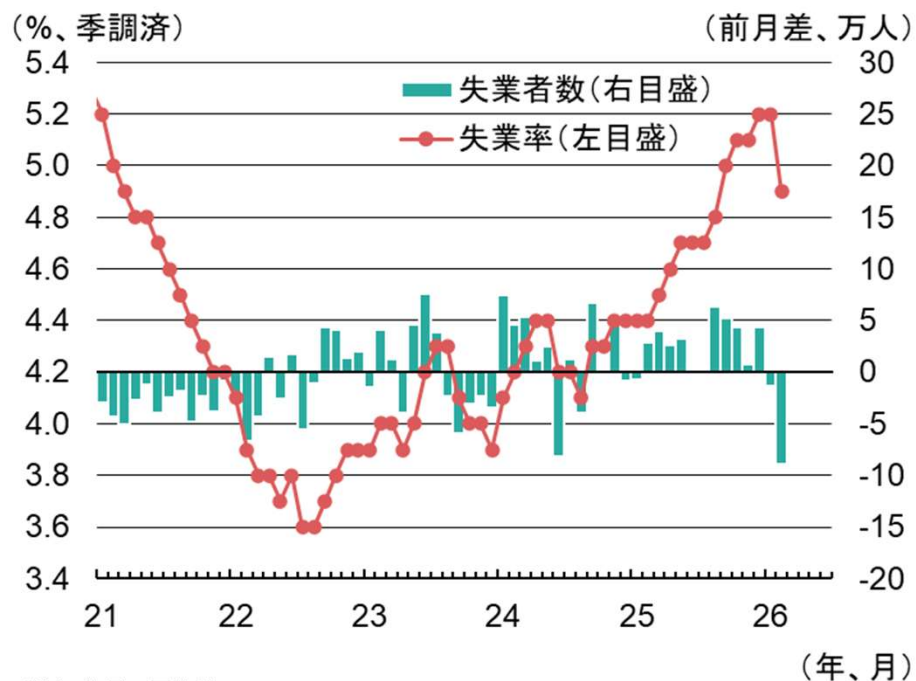


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会(SMMT)

英国景気概況④ 雇用は悪化が一服

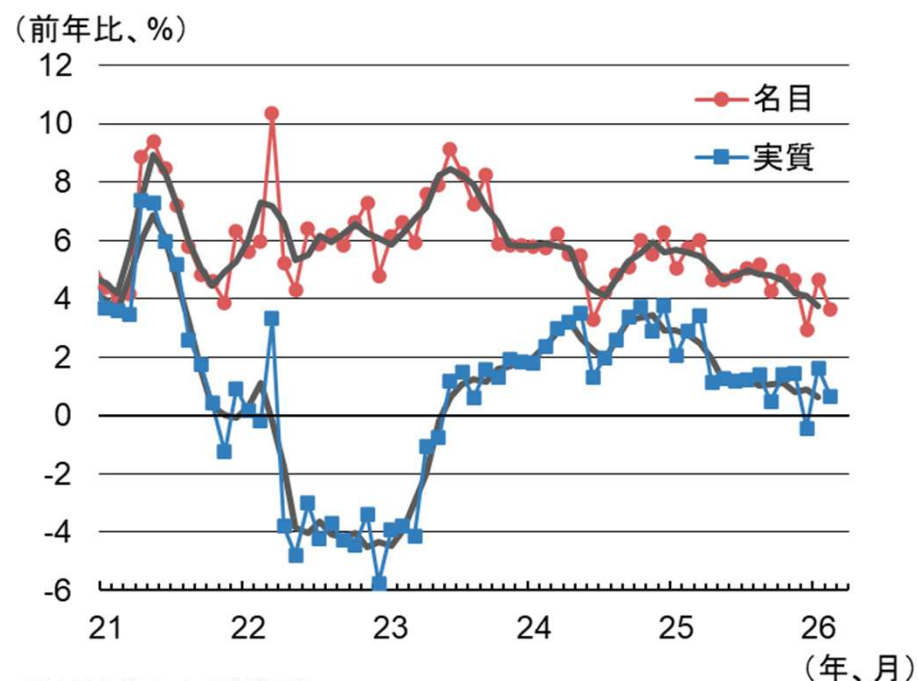
英国の2月の雇用統計では、失業率(3カ月移動平均)が4.9%と前月(5.2%)から低下した。失業率の低下は非労働力人口の増加によるところが大きい。また失業者数は前月差8.9万人減と、2カ月連続で減少した。一方、賃金の増勢は、物価変動の影響を除いた実質ベースでは前年比1%増程度まで鈍化した。

失業率



(注)3カ月の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

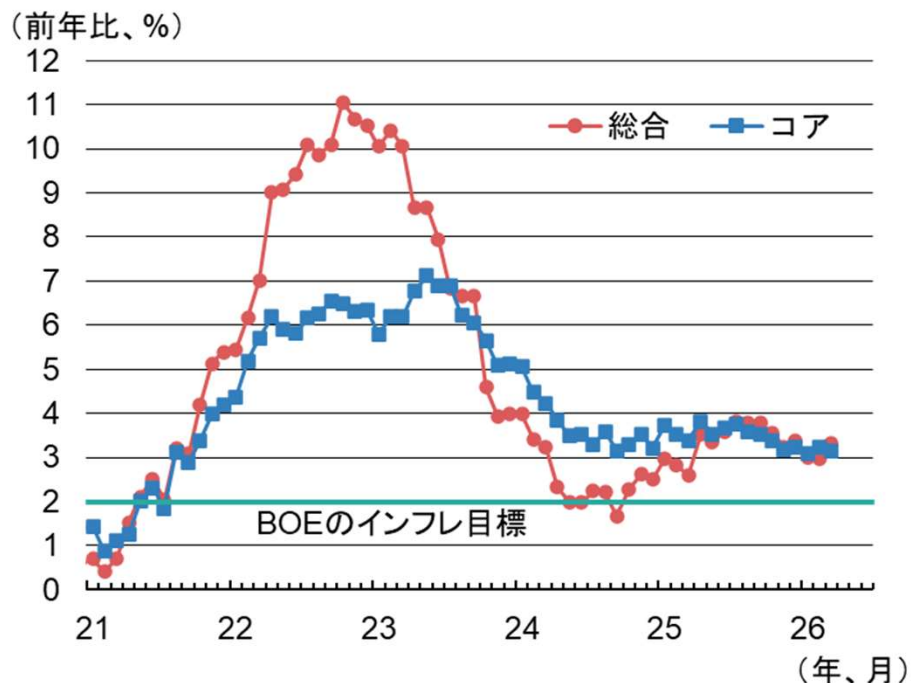


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ インフレは高止まりしている

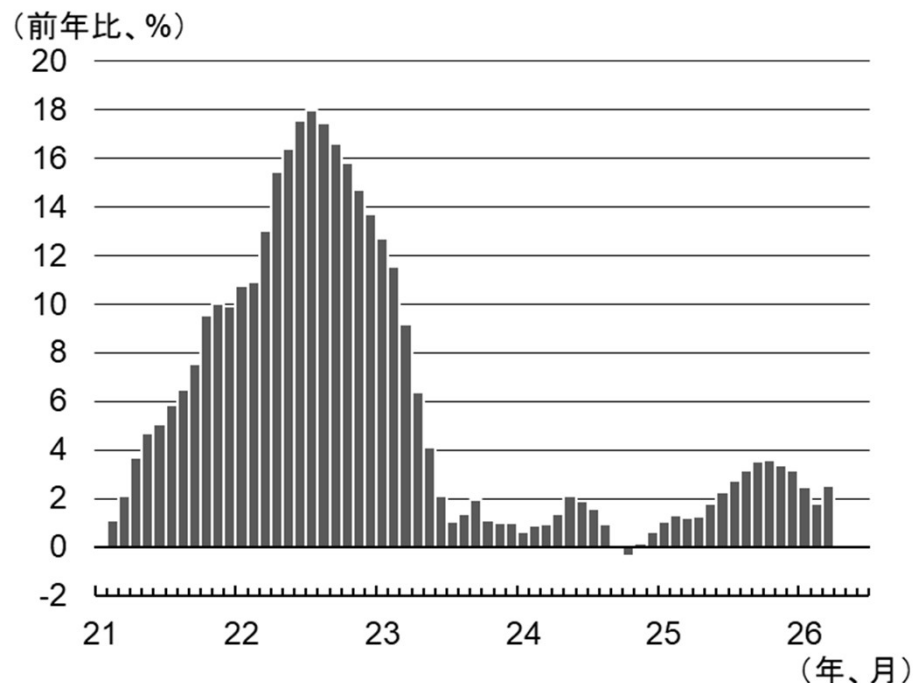
英国の3月の消費者物価は、総合ベースが前年比+3.3%、変動が激しい項目を除いたコアベースが同+3.1%と、いずれも伸びが高止まりした。一方、同月の生産者物価(産出ベース)は同+2.5%と2月(同+1.8%)から伸びが加速した。イラン情勢の緊迫化に伴う燃料価格の高騰で、4月はインフレが一段と加速する公算。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(産出ベース)

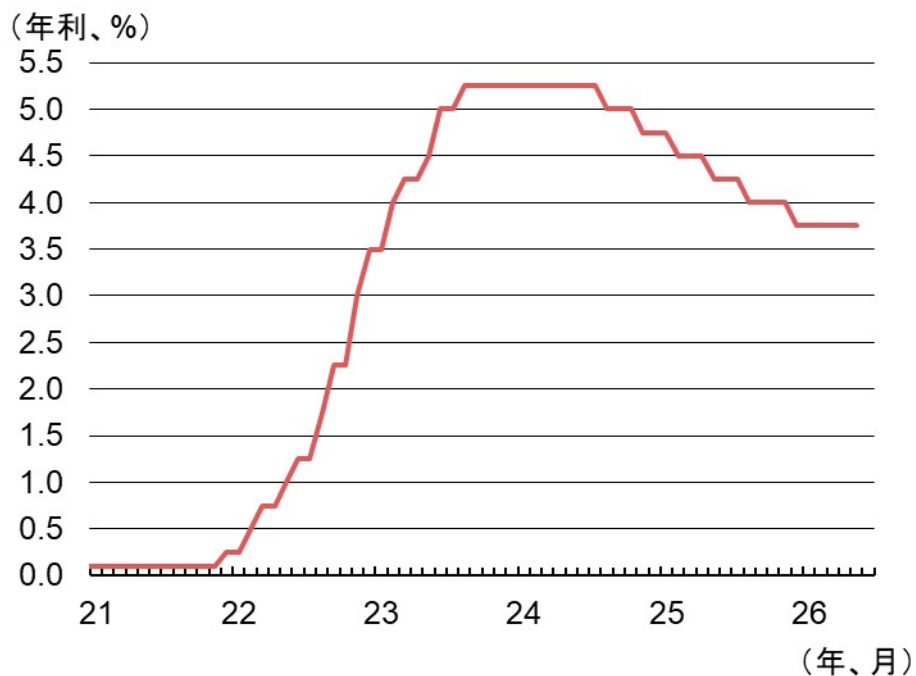


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは4月委員会で金利を据え置き

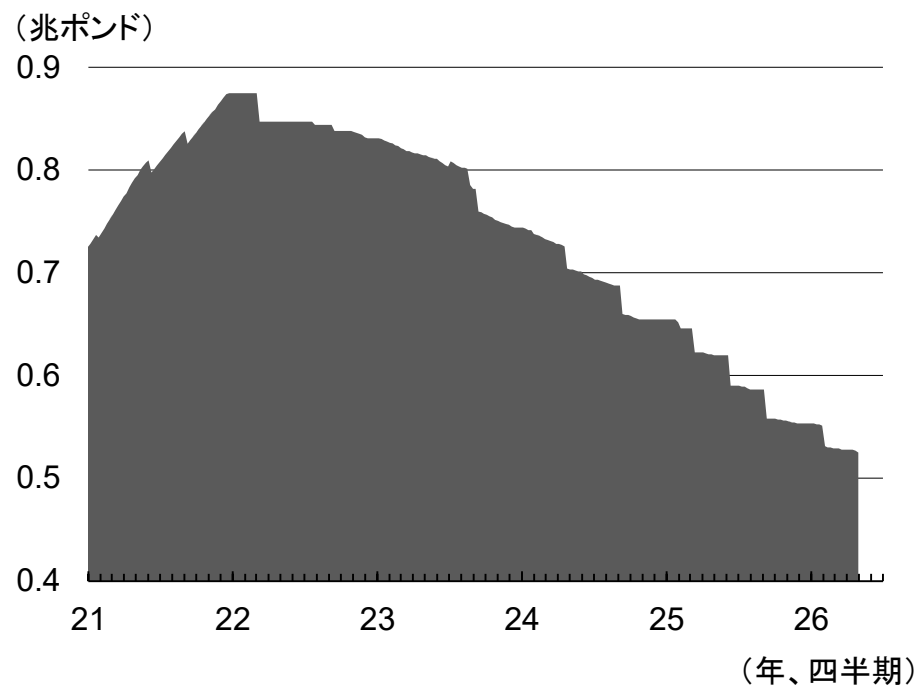
イングランド銀行(BOE)は4月30日に金融政策委員会(MPC)の結果を公表し、政策金利であるバンクレートを年3.75%に据え置いた。イラン情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰を受けて、BOEは先行きの物価動向に神経を尖らせている。次回のMPCの結果は6月18日に公表される。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高

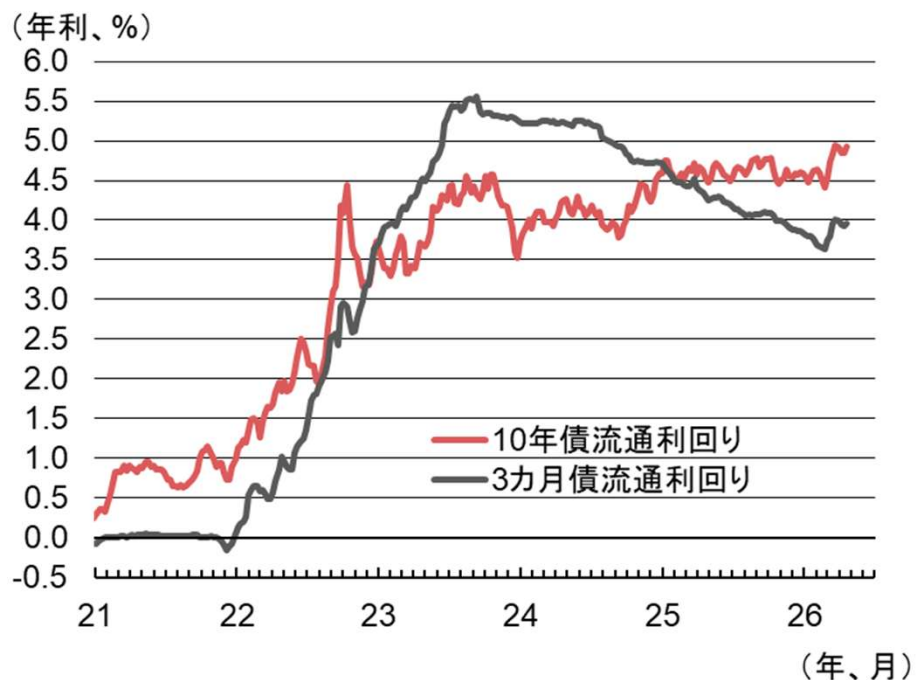


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価も上昇

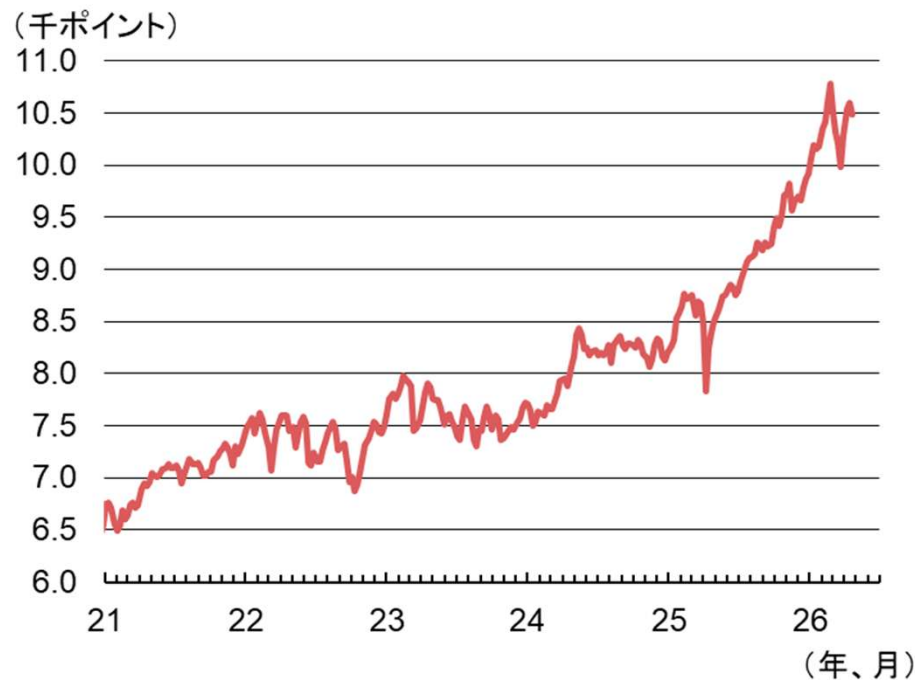
英国の4月の長期金利は上昇した。イラン情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰が材料視され、インフレ懸念から国債が売られた。一方、同月の株価は上昇した。堅調な企業業績が相場を押し上げた反面で、イラン情勢の緊迫化が相場の重しとなった。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所)BOE

株価(FT30指数)

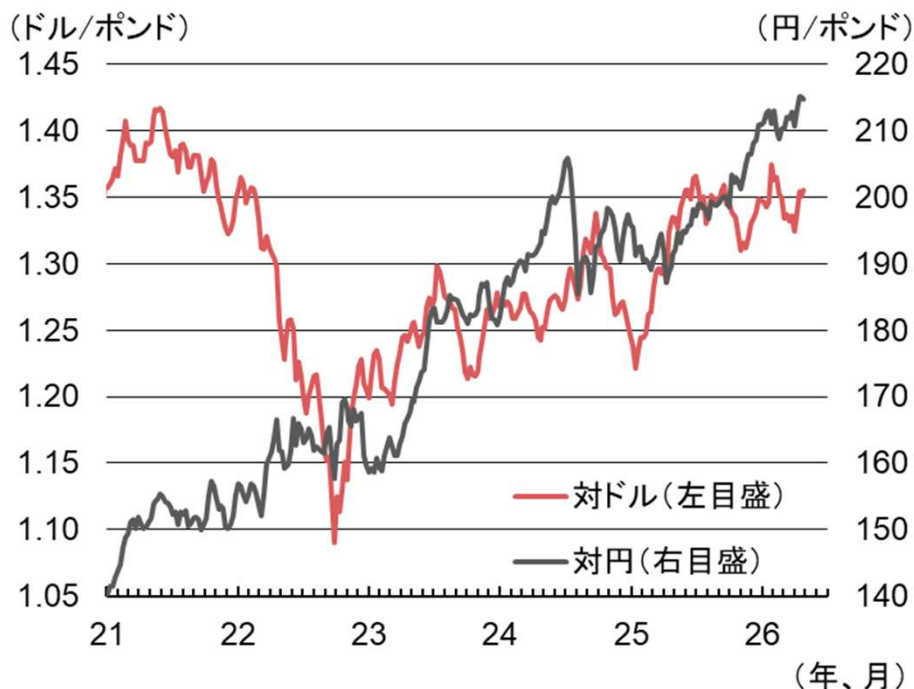


(出所)Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで上昇、対円で横ばい

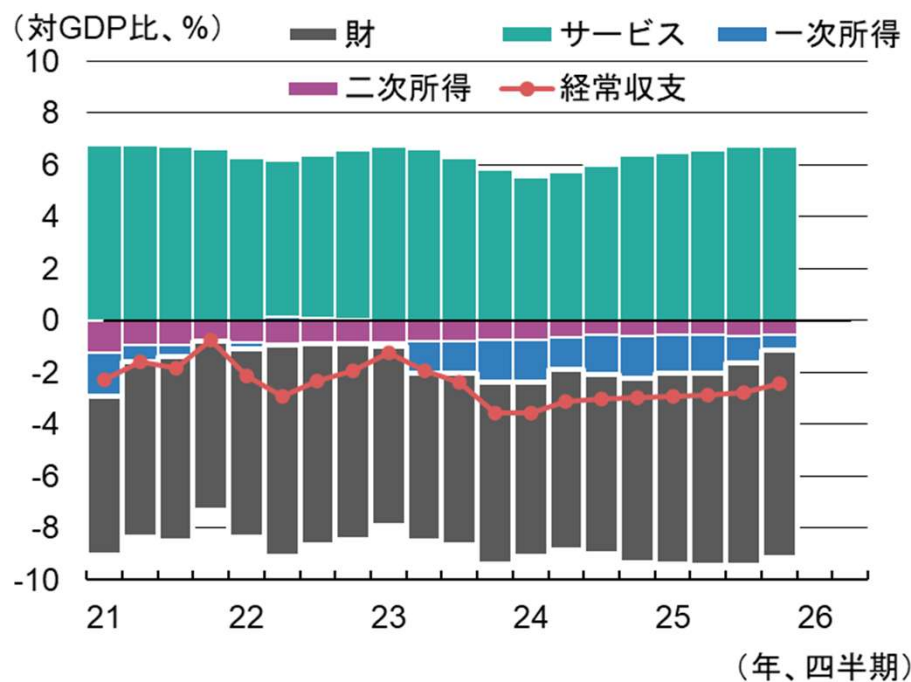
英国の通貨ポンドの4月の相場は対ドルで上昇、対円で横ばいとなった。いわゆる“有事のドル買い”が一服し、対ドルでポンド高が進んだ。一方、対円でも月下旬までポンド高が進んだが、月末に日銀による為替介入が行われ、月間では横ばいとなった。経常収支は、名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



(出所)BOE

経常収支



(出所)BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー